

ドイツ自転車市況－2015

1. 国内生産及び出荷

ドイツ二輪産業協会(ZIV)によると、2015年ドイツ国内の自転車出荷台数は前年比6.1%増の435万台となり、2年続けて増加した。3年続けて減少していた国内の自転車生産台数は、前年比2.3%増の219万台とわずかであるが増加に転じた。販売金額で見ると自転車販売部門の市場規模は前年比12%増の24億2,000万ユーロ(2,904億円)となり、2015年は販売台数・金額共に好調であった。2015年の全業態の平均販売価格は、前年比5.5%増の557ユーロ(66,840円)となり過去最高額を更新した。

ドイツ国内自転車市場の好調は、オランダ市場同様、電動アシスト自転車(EPAC)ブームによる高額なEPACの販売台数増加が続いていることが主な要因であるが、2015年は猛暑に見舞われたものの概ね自転車乗用に適した気候であったこと、日常の移動手段としての自転車への注目が高まりつつあることも、その他の要因であるとZIVは述べている。

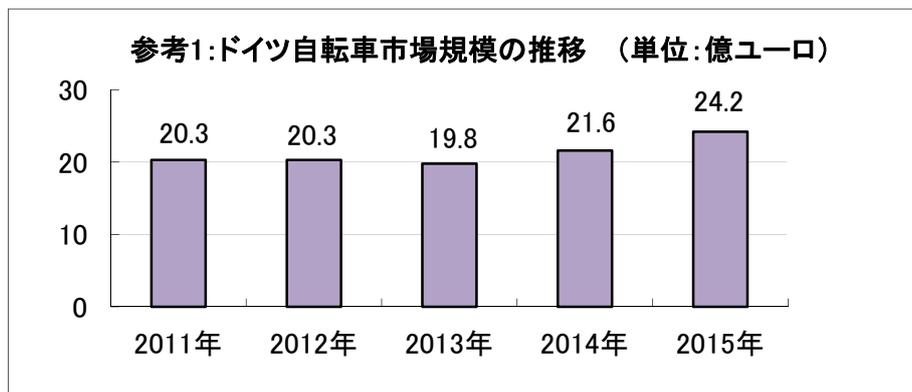
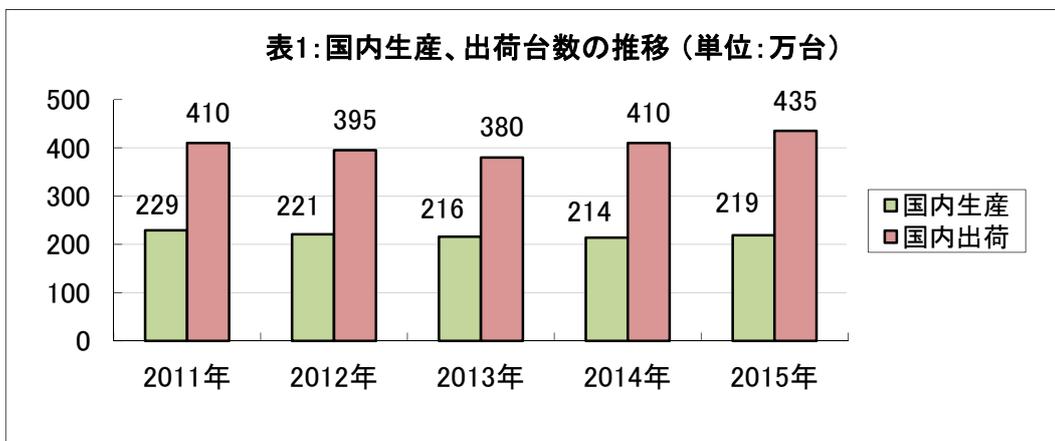


表 2: 平均販売価格の推移 (単位:ユーロ)

年	2011	2012	2013	2014	2015
全業態平均販売価格	495	513	520	528	557

2. 輸出入

2015年の輸出台数は前年比2.5%減の116万台となり、2年続けての減少となった。しかしながら、2015年の輸出金額は同比20.4%増の24億8,000万ユーロ(2,976億円)となり、ここ5年間のうちで大きな増加率を見せた。

輸出の大半は欧州諸国向けであり、輸出上位10カ国の顔ぶれは前年と同じ国々であったが、順位に上下移動が見られた。最多輸出先のオランダは前年比8.4%増の24.4万台と更に増加し、同国だけで全体の2割を占める。それに次ぐオーストリアは同比11.2%増の13.9万台、更にスイス5.8万台やスペイン4.7万台と前年より2割も増加した一方で、ポーランドは前年比43%減の8.1万台と大幅に落ち込み、フランスは同比33.3%減の5.8万台、ベルギーは同比29.2%減の4.6万と不振となり、同じ欧州地域でも明暗を分ける形となった。

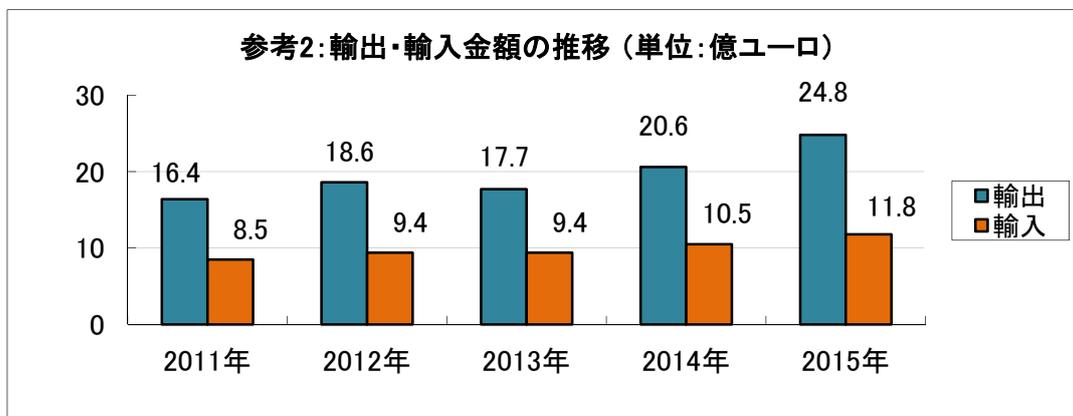
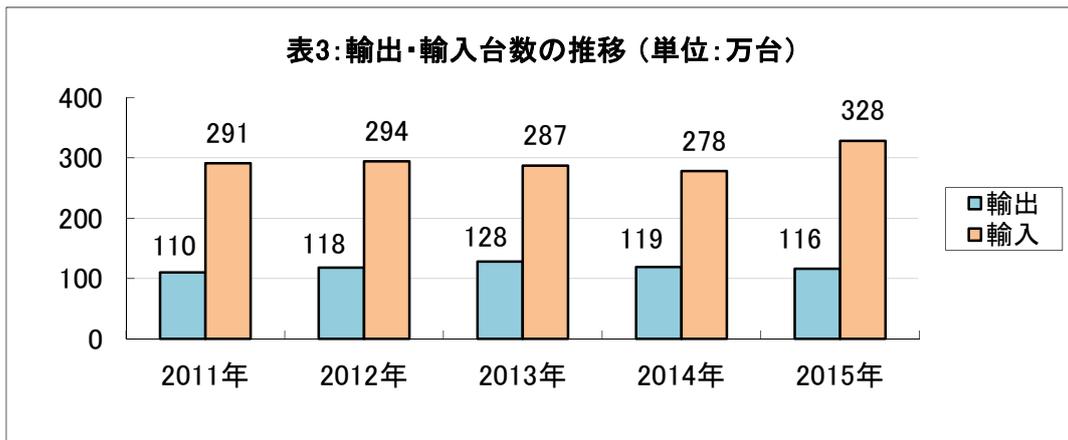


表 4: 輸出台数上位 10 カ国の推移 (単位:千台)

国名	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年/比率(%)	
オランダ	215	221	202	225	244	21.0%
オーストリア	119	112	119	125	139	12.0%
ポーランド	73	82	157	142	81	7.0%
フランス	168	144	97	87	58	5.0%
スイス	52	51	56	48	58	5.0%
スペイン	35	35	31	38	47	4.0%
デンマーク	68	87	96	49	46	4.0%
イタリア	41	39	42	49	46	4.0%
ベルギー	57	65	87	65	46	4.0%
英国	25	28	32	31	35	3.0%
その他	246	316	353	331	360	31.0%
計	1,099	1,180	1,272	1,190	1,160	100.0%

2015 年の輸出台数は前年比 18%増の 328 万台となり、300 万台の大台を超える増加となった。2015 年の輸入金額は同比 12.3%増の 11 億 8,000 万ユーロ(1,416 億円)であり、2 年続けて 2 ケタの増加率となった。

輸入上位 10 カ国中、上位 4 カ国は前年と同じ顔ぶれであった。アジア地域では、最多輸入先のカンボジアは前年比 31.5%増の 68.9 万台と再び急増を見せ、同国だけで全輸入の 2 割を占める。また、中国は同比 36.7%増の 16.4 万台に増えた。中国製自転車には現在 48.5%のアンチダンピング(AD)税が賦課されているが、ここ 5 年で見ても輸出台数は再び増加傾向にある。近年、数社の在中国企業が AD 税措置の免除を受けたこともあり、中国からの輸出台数の推移は今後も注目したい。なお、中国からの迂回行為が認定され 2013 年 6 月から同じく AD 税措置適用中のスリランカは、2015 年には上位から姿を消し、その一方、バングラデシュが一気に上位に浮上する等、アジア地域の生産拠点は依然として変化がめまぐるしい。

欧州地域で見ると、ポーランドは前年比 16.8%増の 36.1 万台、ブルガリアは同比 21.9%増の 29.5 万台及びリトアニアが同比 31%増の 13.1 万台と、増加率の高さが目立った一方で、オランダはわずかに減少し、ここ数年上位 10 カ国に位置していたチェコ共和国は 2015 年には姿を消した。

表 5: 輸入台数上位 10 カ国の推移 (単位:千台)

国名	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年/比率(%)	
カンボジア	110	462	611	524	689	21.0%
ポーランド	275	296	261	309	361	11.0%
ブルガリア	149	178	160	242	295	9.0%
台湾	337	298	263	241	230	7.0%
中国	79	90	113	120	164	5.0%
オーストリア	93	120	114	※	132	4.0%
オランダ	283	129	113	136	131	4.0%
バングラデシュ	※	※	※	※	131	4.0%
リトアニア	266	256	240	100	131	4.0%
ルーマニア	127	166	134	89	98	3.0%
その他	1,187	941	756	1,021	918	28.0%
計	2,906	2,936	2,765	2,782	3,280	100.0%

※その他に含まれる

3. 販売業態別シェア

販売業態別シェアについては、自転車小売専門店が前年より 1 ポイント減少したが、依然 7 割近い最多シェアを占めている。ドイツの消費者は EPAC 等の付加価値の高い商品を購入する際、専門知識を持った自転車小売専門店の従業員から適切なアドバイスを受け、試乗等、吟味した上で購入する傾向が強いとみられる。また、デパート、スーパーマーケットやホームセンター等の量販全体のシェアは昨年より 1 ポイント減少して 18%となり、ここ 5 年減少が続いている。通販・インターネットは昨年より 2 ポイント増加し 13%となり年々増加している。カタログ等による郵送ではなく、インターネットによる自転車、部品・付属品のネット販売が増加しているものとみられる。

表 6: 販売業態別シェアの推移

販売形態	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
自転車小売専門店	69.0%	70.0%	70.0%	70.0%	69.0%
デパート・DIY店・小型スーパー	23.0%	21.0%	20.0%	19.0%	18.0%
通信販売・インターネット	8.0%	9.0%	10.0%	11.0%	13.0%

4. 車種別販売シェア

車種別販売シェアについては、最多シェアのトレッキング車は前年より0.5ポイント増の33%となった。一方で同じ街乗り用途のシティ車は1ポイント減、MTBにライト、リフレクター及び泥除け等の装備を装着して出荷するATBは0.5ポイント減少となった。因みにMTB、レース用自転車等のスポーツ車、子供車・幼児車は前年同様となった。なお、EPAC等の電動自転車は前年より0.5ポイント増の12.5%となり、年々確実にシェアを伸ばしている。

表 7: 車種別販売割合の推移

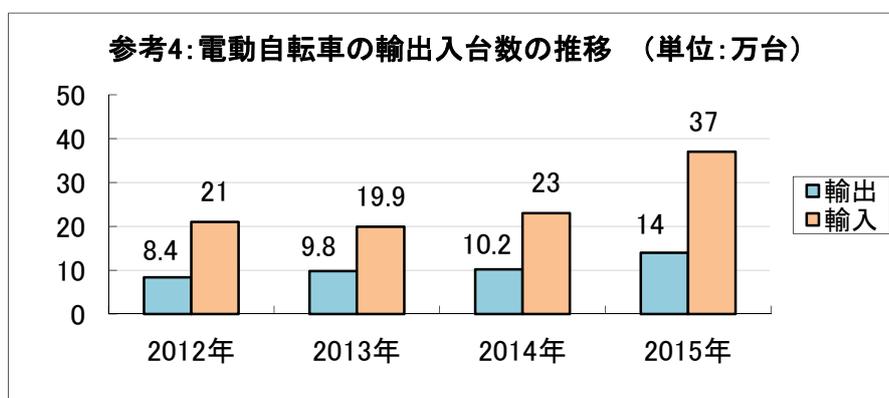
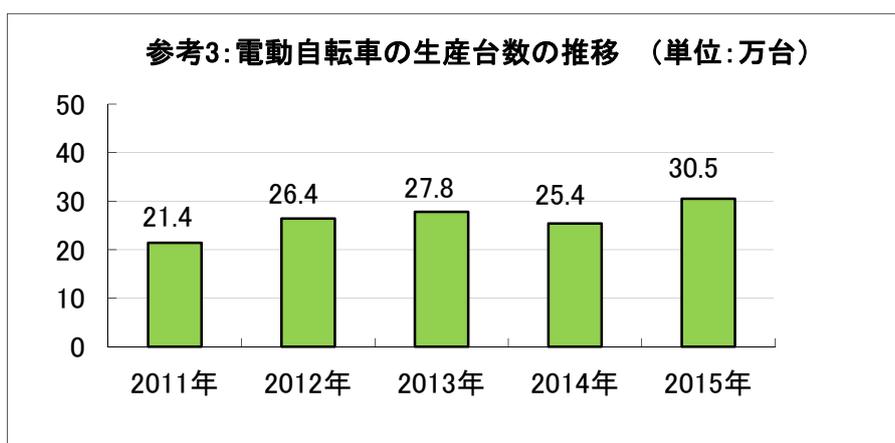
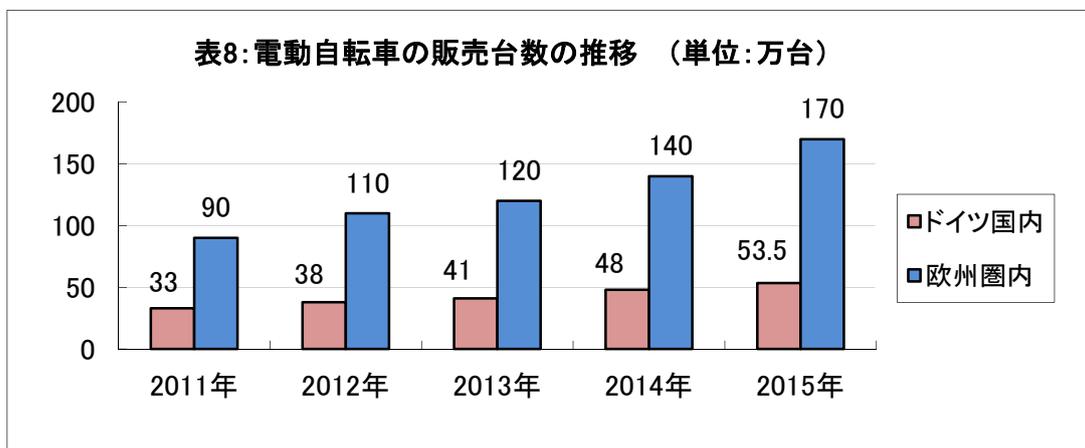
車種	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
トレッキング車	34.0%	33.0%	32.0%	32.5%	33.0%
シティ車	25.0%	24.5%	23.0%	22.0%	21.0%
ATB	8.0%	9.5%	9.0%	8.0%	7.5%
MTB	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%
子供車	3.5%	4.0%	4.5%	4.5%	4.5%
幼児車	2.0%	2.0%	3.0%	3.0%	3.0%
オランダ型及びツーリング車	3.0%	2.5%	3.0%	3.0%	3.0%
レース用自転車／フィットネスバイク	5.0%	4.0%	4.0%	4.0%	4.0%
電動自転車	8.0%	10.0%	11.0%	12.0%	12.5%
その他	1.5%	0.5%	0.5%	1.0%	1.5%

5. 電動自転車 —注目の e-MTB

2015年ドイツの電動自転車(※ZIVによると9割強はEPACとみられる)の販売台数は前年比11.5%増の53.5万台となり、過去5年間、増加が続いている。2015年のドイツ国内の電動自転車の生産台数は前年比20.1%増の30.5万台と大きく増加し、同車種の輸出台数は同比37.2%増の14万台、輸入台数は60.9%増の37万台と輸出入ともに大幅に増加した。輸入先

の6割強はEU諸国からであり、残りの3割がアジア地域からである。輸出先はEU諸国向けが8割、更にその他の欧州地域が1割強を占めており、殆どが欧州向けの輸出である。

ドイツの電動自転車については、2015年は販売、生産及び輸出入ともに2ケタの増加率を見せ、近年のEPACブームにより、これからもドイツ自転車市場全体は堅調に推移すると、ZIVは見ている。



EPACの車種としては、日常の街乗りが主体のシティ・トレッキング車タイプから始まった

が、最近独スポーツ車ブランド中心に、サイクリング等のレジャー用途により適した MTB タイプの電動自転車 (e-MTB) を手掛けるブランドが年々増加している。そのため、電動ユニットドライブメーカーも、e-MTB を意識してか、容量の大きいバッテリーを用意するようになっている。e-MTB は電動自転車の中でも販売価格が比較的高く、用途の多様化に伴い利用層の拡大も期待され、ますます注目が高まっている。

更に ZIV では、欧州地域全体の電動自転車の販売台数は、前年比 21.4% 増の 170 万台に達し前年より 30 万台増と大きな伸びを見せたとしている。欧州の EPAC ブームは、先行するドイツ、オランダ両国を筆頭に、e-MTB 等を中心に底堅い需要のあるスイスやオーストリア等に加え、従来から有力な自転車市場であるフランス、イタリア及び英国等でも本格的な普及が始まりつつあり、更にその他の欧州地域へもブームが広がるのか、今後の動向が注目される。

以 上

統計出所：ドイツ二輪産業協会 (ZIV)